

ヘッダーの用紙端からの距離：12mm

1-1

上余白：25mm

1 ページ目のヘッダーに章タイトルは入れない

# 第1章 総則

章の見出し  
フォント：MS ゴシック, Arial  
フォントサイズ：16 ポイント  
段落前間隔：2 行  
段落後間隔：2 行  
中央揃え

## 1.1 概説

節の見出し  
フォント：MS ゴシック, Arial  
フォントサイズ：12 ポイント  
段落前間隔：2 行  
段落後間隔：0.5 行

参考文献番号  
文字飾り：上付き

内余白：25mm

近年、地球温暖化をはじめとする地球環境問題を念頭にした新エネルギーの導入促進により、風力発電設備がかなりのスピードで増え続けている。……<sup>1)</sup>。

外余白：20mm

## 1.2 適用範囲

指針囲み 線の太さ：0.5 pt

本指針は、モノポール支持式のプロペラ式風車を用いた風力発電設備を対象として、暴風時に作用する風荷重の算定及び構造設計あるいは構造性能評価を行う場合に適用する。

- (1) ……
- 1) ……

指針本文  
フォント：MS 明朝, TimesNewRoman  
フォントサイズ：10 ポイント

### 【解説】

フォント：MS ゴシック  
フォントサイズ：10 ポイント  
段落前間隔：0.5 行  
段落後間隔：0.5 行

本指針は、風力発電設備の適切な耐風設計を行うことができるよう、現状の規・基準類や知見をとりまとめたものである……。

表タイトル  
フォント：MS 明朝, TimesNewRoman  
フォントサイズ：10 ポイント  
段落前間隔：1 行

表 1.1 適用範囲外の風車の例

垂直軸風車	ダリウス式、直線翼式、サホーワズ式、ハドル式、クロスフロー式、S型ロータ式など。
プロペラ式以外の水平軸風車	オランダ式、セイルウイング式、多翼式など。

## 1.3 風車の基礎知識

項の見出し  
フォント：MS ゴシック, Arial  
フォントサイズ：10 ポイント  
段落前間隔：1 行（節見出しの直後は 0.5 行）  
段落後間隔：0.5 行

### 1.3.1 風車の概要

- (a) ……

風力発電は、自然エネルギーである風力エネルギーを電気エネルギーに変換して利用するものであり、変換の過程としては、本文中に、数式を挿入した場合、行間が広くなる場合には、運動エネルギーに変え、次ぎにその回転を歯車 [段落設定], [行間] で, [固定値, 18pt] を設定して下さい。うものである。

一般に、風は地上から上空に向かうほど強くなるため、風車の高さはできるだけ高くした方が有利であり、 $\sqrt{A}$ 、また風車の取得エネルギーは風車の羽根(ブレード)の長さを長くしたほうが有利となる。現在、多く用いられているブレードの長さが……。

本文  
フォント：MS 明朝, TimesNewRoman  
フォントサイズ：10 ポイント

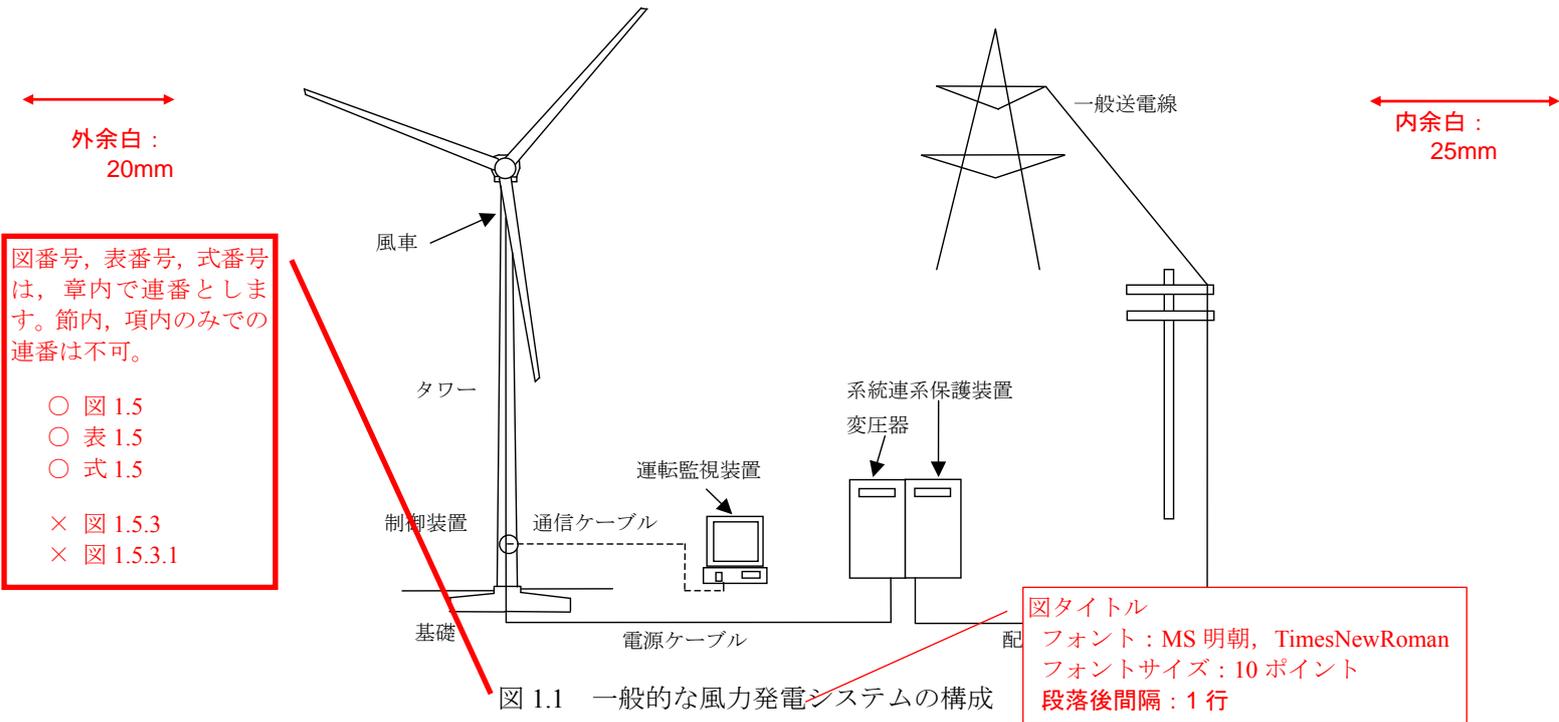
下余白：25mm

600kW の場合、タワー高さは 40～50m、羽根の直径は 45～50m で、1,000kW～2,000kW の場合では、タワーの高さは 60～90m で羽根の直径は 55～70m で、風力密度が大きいほど発電量が大きくなる。風は、風向きや風速が絶えず変動する。小さいことから、風力発電システムの制御は、コンピュータ制御の機能が備わっており、より多くの安定した出力が得られるような工夫がなされている。風速が一定以上になるとなるよう大小 2 つの発電機を備えて風速により発電機を切替え、幅広い風速に対応できる風力発電システムもある。

左ページヘッダー：風力発電設備支持物構造設計指針・同解説  
 右ページヘッダー：章タイトル ex. 「第 1 章 総 則」  
 [ページ設定], [その他]で, [奇数/偶数ページ別指定]を選択。  
 先頭ページのみ別指定

ページ番号  
 フォント：Arial  
 フォントサイズ：10 ポイント  
 ページの上・外側

図の上は、1 行空ける。



図番号、表番号、式番号は、章内で連番とします。節内、項内のみでの連番は不可。

- 図 1.5
- 表 1.5
- 式 1.5
- × 図 1.5.3
- × 図 1.5.3.1

図タイトル  
 フォント：MS 明朝, TimesNewRoman  
 フォントサイズ：10 ポイント  
 段落後間隔：1 行

図 1.1 一般的な風力発電システムの構成

$$Er = 1.7 \left( \frac{Zb}{Z_G} \right)^\alpha$$

ここで、

Er：平均風速の変換係数

式  
 段落前間隔：0.5 行  
 段落後間隔：0.5 行  
 左インデント：4 文字

数式エディタ  
 標準：10pt  
 上付き/下付き文字（メイン）：6pt  
 上付き/下付き文字（サブ）：5pt  
 シンボル文字（メイン）：15pt  
 シンボル文字（サブ）：10pt

(1.3)

式番号  
 リーダー：40 文字

参考文献

- 1) 石原孟, 山口敦, 佐々木庸平, 藤野陽三：地域気象モデルと地理情報システムを利用した洋上風力賦存量の評価, 第 26 回風力エネルギー利用シンポジウム, pp.287-290, 2004
- 2) 日本建築学会：建築物荷重指針・同解説, 2004
- ：
- 30) 土木学会：2002 年制定 コンクリート標準示方書【構造性能照査編】, 2002

参考文献の見出し（節の見出しと同一）  
 フォント：MS ゴシック, Arial  
 フォントサイズ：12 ポイント  
 段落前間隔：2 行  
 段落後間隔：0.5 行

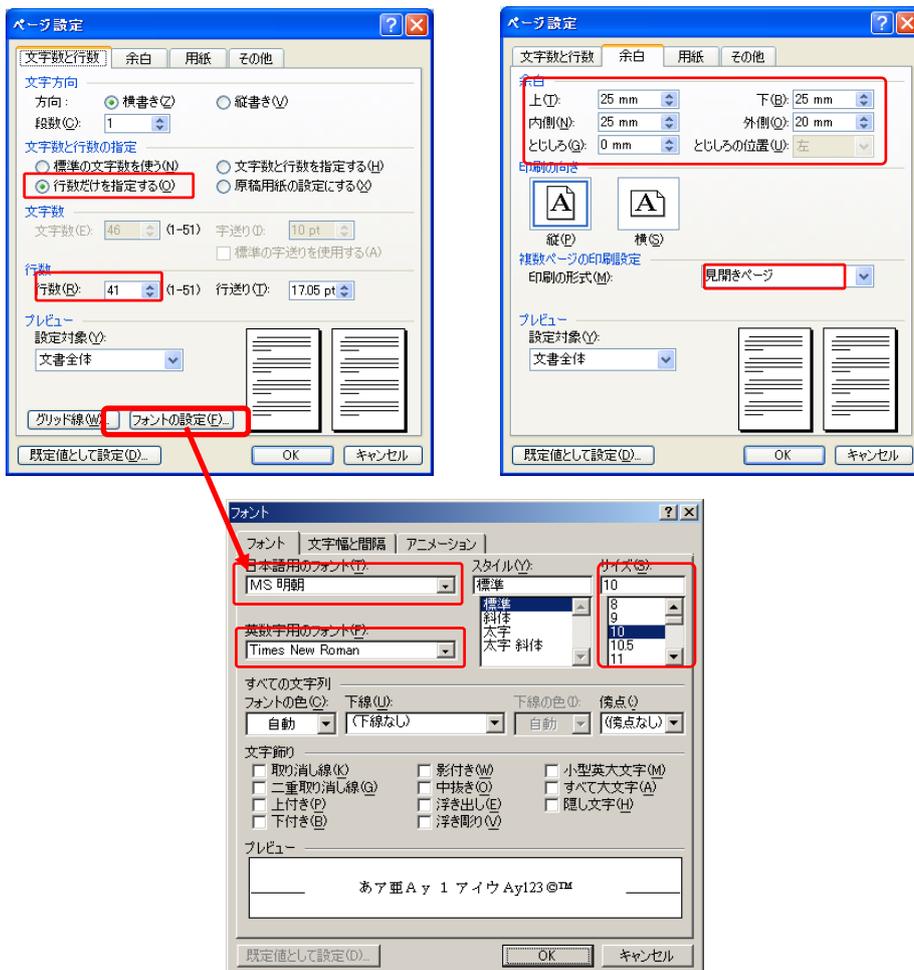
参考文献  
 フォント：MS 明朝, TimesNewRoman  
 フォントサイズ：9 ポイント

## 補足説明：

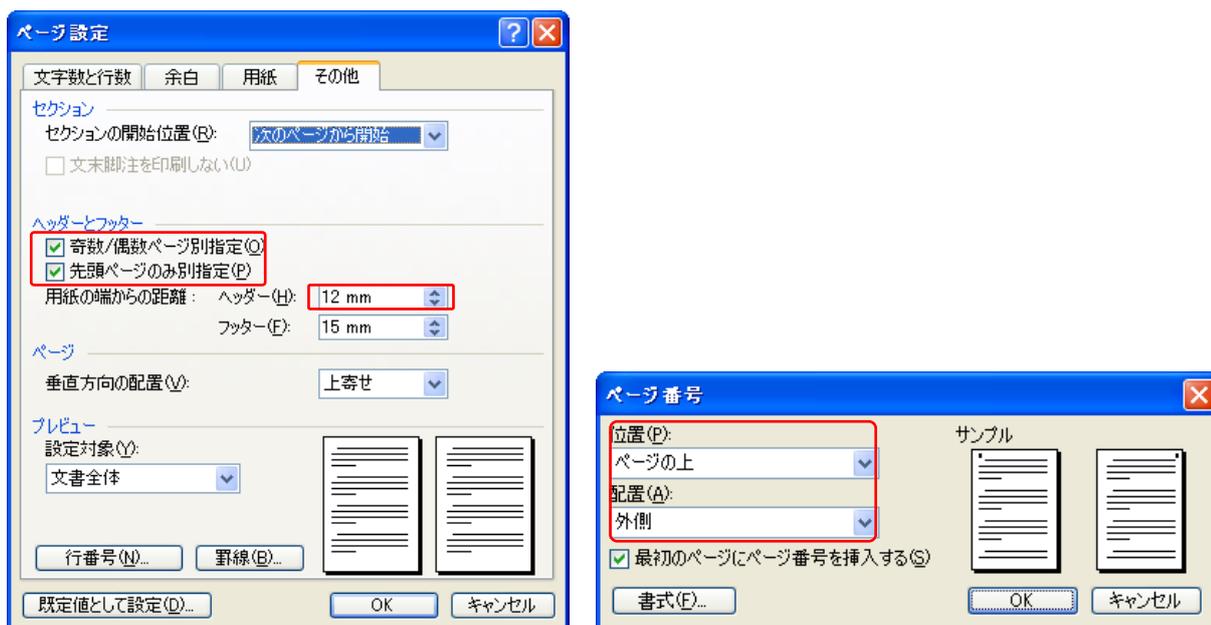
- ・ ページは, [章番号]-[ページ番号]として下さい。指針出版時には, 通しに変更する。
- ・ 図の「レイアウト」は, 可能な限り「行内」でお願いします。
- ・ 句読点は, 「,」「。」を使用して下さい。
- ・ Windows 版 Word 2000」の設定例を示します。他のバージョンの場合も, 同様の設定でお願いします。
- ・ 文章中の ( ) は全角。(1)や(a)に付く ( ) は文章中でも見出しでも半角。
- ・ 1 ページ目のヘッダーはページ番号のみ (章タイトルは入れない)。
- ・ 偶数ページで終わるようにする。
- ・ 第 2 章のフロー図と第 13 章の関連法規の字と式のサイズは 8 ポイントにする。
- ・ 章、節、項の振り方は以下のようにする。 1 (章) →1.1 (節) →1.1.1 (項、1 項のみの場合は項をつけない) → (a), (b) (その下はゴシックのタイトルを使用する)
- ・ 囲みの中の振り方は以下のようにする。 (1), (2) →1), 2)
- ・ 数式を参照する場合の表現は式 ( ) とし, 括弧は半角とする。
- ・ 図, 表は原則的にはめ込み式にしない。
- ・ 記号の説明は「ここで,」とする。数値の桁区切りの「,」は入れない。
- ・ 【解説】の段落前・後間隔はそれぞれ 0.5 行, フォントは MS ゴシック 10pt とし, 【他法規, 規準, 指針等との関連】の段落前・後間隔はそれぞれ 1 行・0.5 行とする。
- ・ 注 1), 注 2)の数字と括弧も半角とする。
- ・ 単位, 数字につく括弧は半角

注：本資料は「風力発電設備支持物構造設計指針・同解説 2010 年版」を作成する際に用いたフォーマットである。

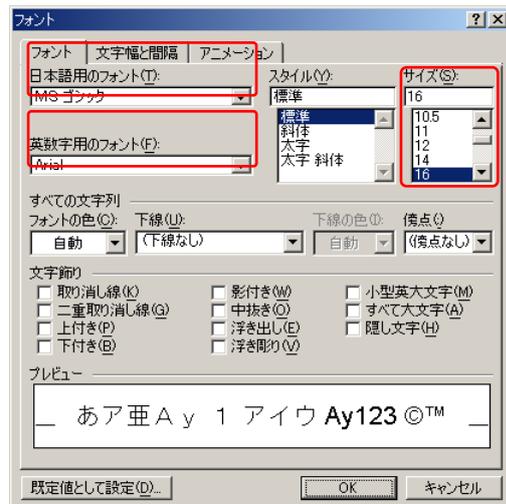
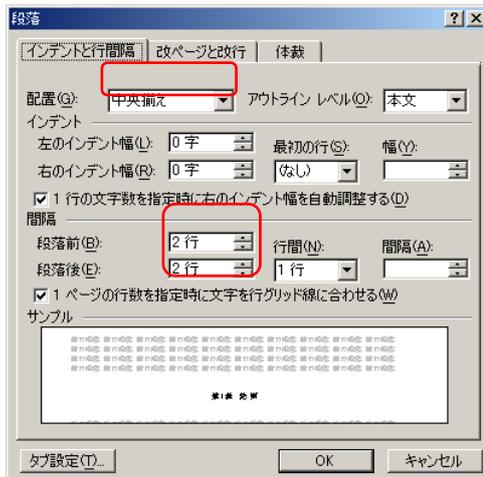
ファイル---ページ設定



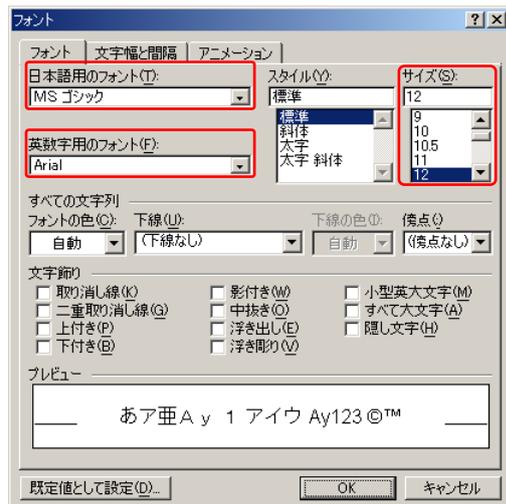
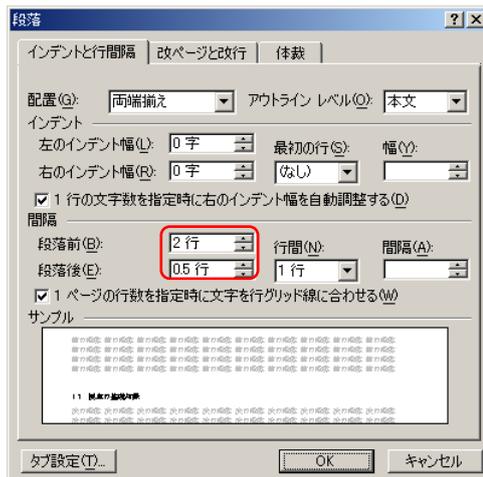
ヘッダーとフッター ページ番号



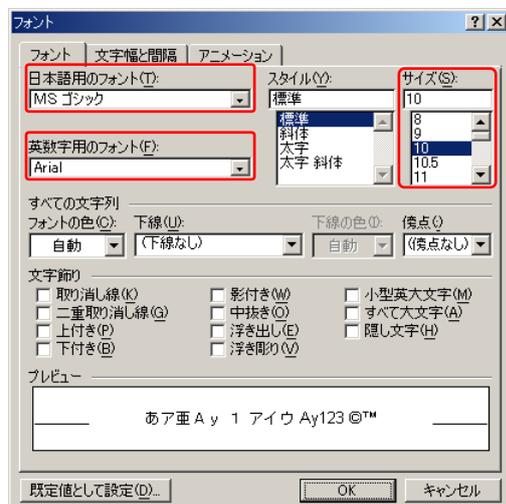
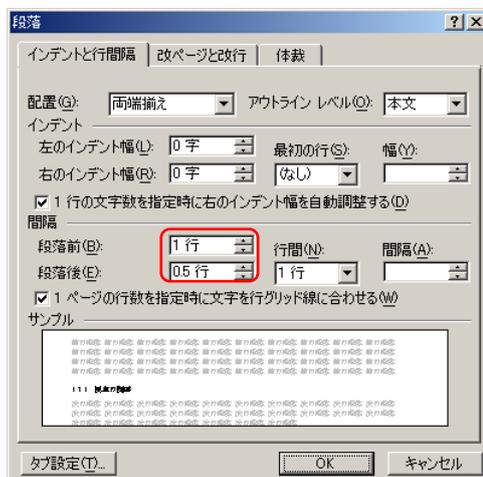
章見出し



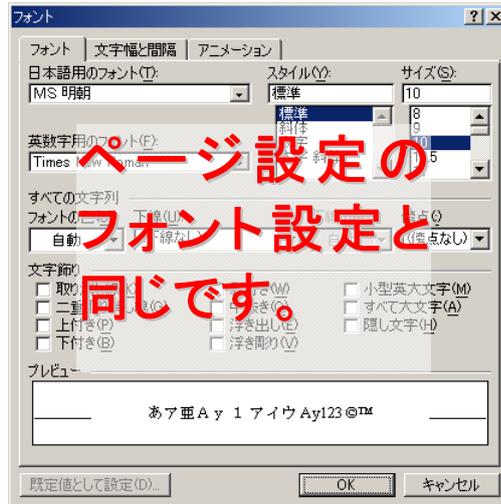
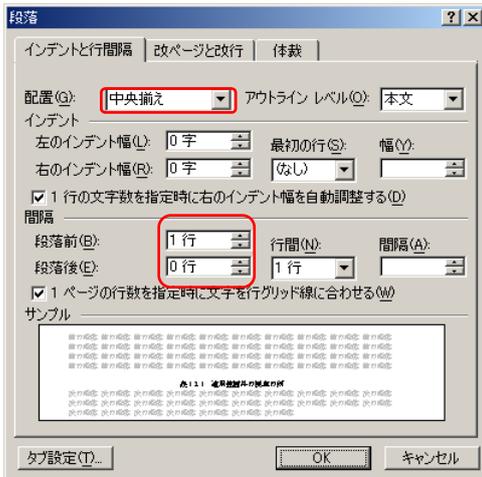
節見出し



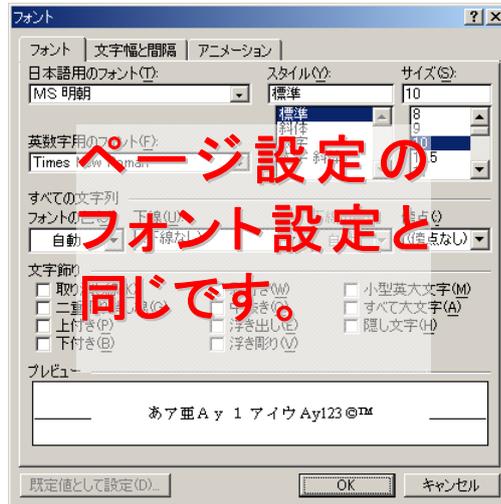
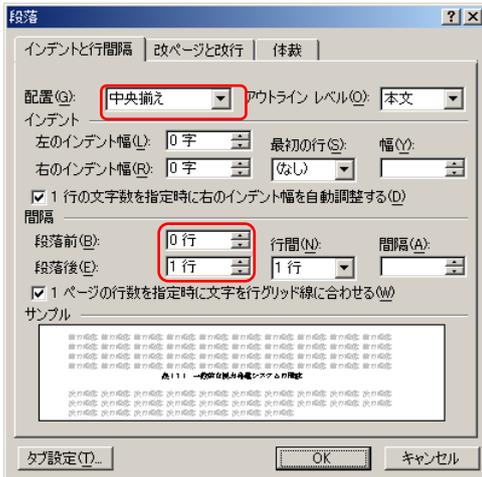
項見出し



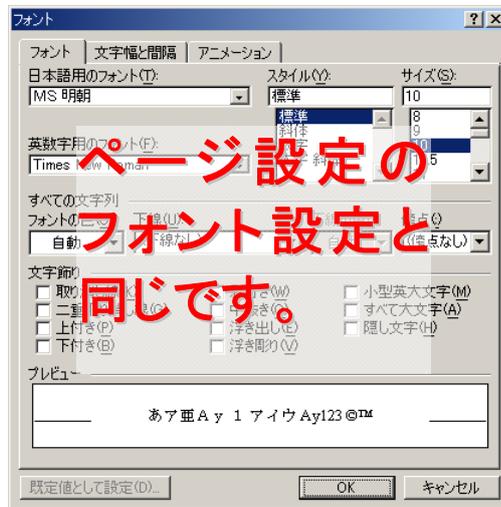
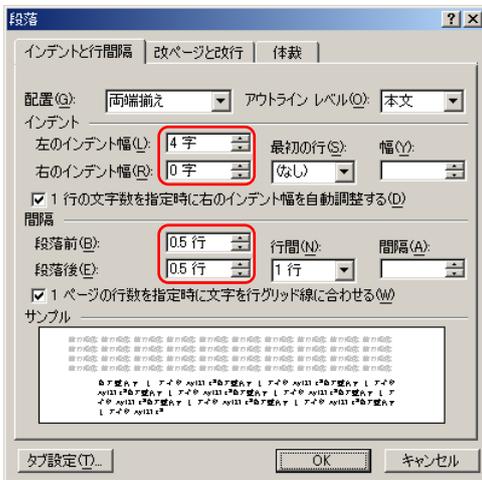
表タイトル

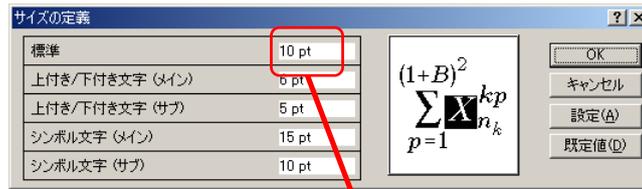


図タイトル



数式





第13章は8pt

## 参考文献

